

「高輪築堤の歴史的経緯と遺構の現況」 大島登志彦（顧問）

高輪築堤の概要

2020年12月、高輪ゲートウェイ駅周辺で、わが国で最初に開業した新橋―横浜間約29kmの鉄道のなかで、高輪築堤の遺構が見つかったことを、JR東日本が発表した。筆者は、過日それを見学する機会を得たので、表題に即して、その概要を考察していく。

高輪築堤は、海上に延長約2.7km・平均幅6.4mに及んで構築された。明治政府は、1869年に鉄道建設を決定したが、この周辺の土地は国防上必要で、兵部省が鉄道当局への用地の提供を拒んだため、海上に築堤を建造して鉄路を通したといわれる。その工事は、イギリス人技師エドモンド・モレルの指導の下で民部省鉄道掛が担当し、周辺に広がる湾を短絡するのではなく、海岸線に沿った浅瀬に建設したと思わせる築堤で、舟が海へ出入りするため、この間に4つの橋梁が造られた(第5～8橋梁)。築堤が崩壊したり、波や土砂の打ち寄せを弱める工事が難航したことが、新橋―横浜間の本開業約4ヶ月も前に、品川―横浜間が仮開業していたことから推察できる。当時の歌川廣重などが描いた幾つかの錦絵には、列車が築堤を走り、築堤と陸地を挟む海面に舟が浮かぶ様子が描かれている。

再開発工事による遺構の確認

新橋―品川間の鉄路は、1876年12月に複線化され、さらに1899年、築堤を拡幅して3線化され、新たな石垣を構築した。しかしその後、湾一帯の埋め立て工事が1914(大正3)年までに行われ、後に巨大な鉄道車両基地になった。高輪築堤は、埋め立て工事などの過程で、すでに取り壊されたと考えられていたという。しかし、2019年4月の品川駅改良工事の際に、当時の石垣の一部が発見され、同年11月に実施された山手線と京浜東北線の線路切り替え工事以降、遺構の試掘調査が行われた。

この地域の再開発工事は、築堤だった区間の約半分の1.3km周囲で進められているが、2020年7月以降、当時の姿が比較的良好な状態で残っていることが分かり、同年12月2日、その遺構の確認が発表された。再開発計画は、2024年開業を目指す高層ビル建設が主軸となり、現在その前提として必要な文化財発掘調査が行われている最中で、築堤全体の検出の他、一部で築堤の内部構造に関する調査が実施されるという。

築堤の石垣は高さ約4mで、海側は、石を一段ずつ最大15段が確認された布積み構造で、それを支えた胴木や杭、海底に固めた群杭の遺構が見られた。一方の陸側は、石を斜めに使って積み上げる谷積み構造で、群杭は地中深くまで食い込んでいるという。



▲都心の一角に姿を現した高輪築堤の遺構。海側の傾斜した石垣の石積み

◀扇形にカーブした石垣が印象的な第7橋梁跡。手前に基礎を補強した群杭の跡もみえる

再開発と現地保存を考える

築堤の内部構造はまだ解明されていないというが、石垣も含めて、明治初期の日本と西洋の土木技術が混在・凝縮して、日本の近代化過渡期の土木遺産として貴重な構造物と考えられる。また、この地は江戸南端の玄関口であり、この遺構が現地保存されるならば、鉄道・土木技術の後世への伝承はもちろん、地域の歴史教育や文化振興に果たす意義は大きいと考える。

再開発と遺構保存の兼ね合いについて、再開発が計画通りに進められる場合、遺構は、調査終了後、大半は解体され、重要部分の一部を移設保存して、道路部分などは埋め戻されるという。遺構の重要性を鑑みると、現地保存を要望したいし、その可能性もあるというが、日本の鉄道遺構は150年足らずのため、文化財発掘調査の対象となった事例はまだ些少だと考える。新橋駅跡の場合は再開発が優先され、当時の遺構は、地下に最小限保存されただけとなっている。

本稿は、2021年1月22日に行われた鉄道史学会の現地視察に参加した際の見聞や資料をもとに執筆した。当日案内して下さったJR東日本、港区教育委員会に、御礼申し上げます。

(高崎経済大学名誉教授)

■参考文献

- ・「日本の鉄道」(2003年、財団法人東日本鉄道文化財団)
- ・「高輪築堤」現地見学会資料(JR東日本・港区教育委員会作成)
- 掲載写真はいずれも2021年1月22日筆者撮影



はじめて開催したWeb会議のZoom画面

2020年度Web会議開催報告

2020年10月9日(金)13:30～15:00、横浜メディア・ビジネスセンターにある会議室をベース基地にして、Zoomソフトを使ったWeb会議を開催いたしました。今年度の総会は宮城県栗原市で開催予定でしたがコロナ感染拡大防止のためやむなく中止にし、書面で行いました。会議ではこの書面総会報告とWeb会議参加会員から現状報告をして頂き、情報交換を行いました。

また横浜からは、横浜市電1156保存会の齊藤大起さんと米山淳一事務局長から「横浜と鉄道」について最新情報の報告がありました。短い時間ではありましたが、オブザーバー、顧問、事務局の23名がネットを通じ、有意義なひと時を過ごしました。ご参加のみなさんの様子をダイジェストではありますが報告いたします。

●栗原市 〔くりはら田園鉄道公園くりでんミュージアム〕 学芸員／高橋尚史・大杉要さん

昨年度末3月1日から5月19日までの約2カ月半は、閉館しておりました。再開後も集客の足は伸びておりません。三密が発生しかねないという観点から、年内の乗車イベントは全て中止になりました。9月はGoToトラベルの影響もあってか、昨年を上回る来場者数を記録しましたが、現時点での集客は例年の半分以下となっております。自粛期間の時間を有効活用し、今までできなかった倉庫の整理、ミュージアムスタッフの運転訓練をおこなっています。くりでんOBを中心とした任意団体「くりでん保存愛好会」の指導を受け最大限の努力を続けています。現在は市の直営で運営していますが、4月1日からは指定管理業者の管理となるよう、業務移行が進行中です。来年の日本鉄道保存協会総会で、皆様に最大限の魅力を伝えられるよう準備を進めていきたいと思っております。

●陸別町商工会 〔ふるさと銀河線りくべつ鉄道〕 事務局長／杉本武勝さん

これが今の私の商工会の事務所の2階から撮っている映像です。晴れてます。こちらが駅です。ここから運転体験される方が乗られ、こ

ちらのほうに構内を北見方に進んでいくと車両庫があります、その前に町道がありますので、その手前で構内車両を止めて10mほど歩いてから、構外用の車両に乗って、そこから2.8kmの運転体験をしてもらいます。今年から2.8kmの新銀河コースを開設しました。来年度は、旧ふるさと銀河線の残ってる鉄路5.7km全線を使った運転体験コースを企画中です。車両は、平成元年に作られた33～34年位経った車両をメンテナンスしながら、何年か前の世界大会の時にイギリスの方に教えられた通り、部品を見つけて、代用品を見つかったり、ライトなんかも見つけて、大事にしながら使っています。りくべつ鉄道から以上です。

●一般社団法人 〔あしおトロッコ館〕 岡本憲之・北川潤さん

我々あしおトロッコ館は今年から一般社団法人になりまして、新しい活動を始めようと思っていましたが、ご存じの通りコロナの影響で一切イベントを中止しております。日光市自体がお祭り関係は一切止めてるので、我々だけちょっと派手にするということは難しく年に3回の足尾駅の公開も中止しました。今年はじっとしている状況ですが、来年コロナ関係が落ち着きましたら、イベントも色々考えておりますので、

是非とも足尾の方に皆さんお越しいただきたいと思っております。以上です。

●日本工業大学 〔工業技術博物館〕 学芸員／丹治 明さん

お久しぶりです。コロナの感染で全く活動が自粛の状態になっております。B6の方は今年一度だけ運転しました。来年度までは運転できないだろうということで整備と塗装を自分たちの手でおこなっている状態です。昨年(2019年)10月に箱根登山鉄道の電車1台を寄贈していただき博物館の前庭に展示しております。2月7日にお披露目の式典を盛大に行い、現在ご希望があれば見学していただける状態となっております。照明機器の点灯とか、乗降扉の開閉等が駆動できるようになっておりますので、ある程度は当時の様子を体験していただけるかなと。もちろんレールの上には乗ってませんが、走行できる状態とは違います。動態保存ということは学内では検討していないようで、当面はこの状態での保存になると思います。

●公益財団法人東日本文化財団 〔鉄道博物館〕 企画部長／岩見隆則さん

昨年度の2月29日から今年度の6月9日まで、

3カ月以上にわたって休館をしておりまして。イベント等はすべて中止しております。2018年夏のリニューアルで触れる展示を増やしましたがそれが仇となりました。体験展示は人気のシミュレーターははじめ休止しています。触れる展示については光触媒による抗ウイルス加工をおこなって、全て再開はしております。企画展につきましては、総会資料には当時開催していた常磐線展を紹介させて頂きましたが、全線運転再開記念と言うことで、非常に好評でした。入場には、コンビニで枚数限定で事前販売している時間指定のチケットを買って頂くかたちで、お客さまにもご協力いただいております。

●新潟市 〔新津鉄道資料館〕

副館長／加藤裕之さん

新津に有ります総合車両製作所の一般公開に合わせまして、新津まるごと鉄道フェスタというものを例年開催しておりました。当館はまるごとフェスタに合わせて、例年講演会をおこなっていますが、今回は中止という状況になっています。ただ新型コロナウイルスの感染防止対策をとりつつも、ちょっと緩和の方向になってきているということで、今月(10月)から実物車両(内部)の公開を、今まで客室のみとしていたものを、運転席の方も事前申し込みの上、公開ということで予定をしております。そんなような形で様子を見ながら、なるべく多くのお客様に来ていただけるよう取り組んでおります。

●NPO法人 〔愛岐トンネル群保存再生委員会〕

理事長／村上真善

初めまして愛岐トンネルの村上です。昨年この会に入会させていただきまして、今回の栗原が初デビューのはずだったんですが、中止になってしまに残念です。旧国鉄中央線多治見～定光寺間の13基のトンネル群を40年ぶりに発見し、これを保存活用しようという目的で作った市民活動のグループです。発見後は春と秋に計2週間公開していますが、おかげさまで入場者が累計30万人に達しました。この会の活動をもっと広げなきゃいけないということで、今日も参加されております北陸線のトンネル群さん、群馬県の碓氷のトンネル群さんと、3者で日本三大廃線トンネル群という、勝手に三大廃線の名称を作りまして、トンネルカードを発行したりして、連携をもっと深めて行こうというふうに考えております。



米山事務局長、花上顧問、大島顧問(左から)



事務局田中さん渾身の配信機材

●公益社団法人長浜観光協会 〔長浜鉄道スクエア〕

梅園いつ子さん

昨年は長浜で総会を盛大に開いていただきまして誠にありがとうございます。日本遺産については、長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会で申請された鉄道遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄路のキセキ～」が2020年6月に日本遺産に認定されました。長浜鉄道スクエアの旧長浜駅舎は、ストーリーを構成する文化財の中でも非常に重要なポイントだと思います。これを機会に当館を大いにPRしてこうと思っています。現在、鉄道スクエアにおりますので、開催中の展示をご紹介します。今年急逝された鉄道保存協会の会員でもありました清水薫さんの遺作展です。素晴らしい作品をたくさん展示しております。

※現在の展示は、「関田克孝コレクション 子供たちの見た東海道線の旅～絵本、図鑑でたどる100年～」2021年5月31日(月)まで開催

●長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 〔南越前町観光まちづくり課〕

西田周平さん

今年度はコロナ禍の状況が続く、社会全体が暗い雰囲気ではありますが、当協議会におきましては、明るいニュースが1つございました。それは、日本遺産認定です。今年6月に、滋賀県長浜市、福井県敦賀市・南越前町にまたがる鉄道遺産で構成されるストーリー「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄路のキセキ～」が日本遺産に認定されました。認定セレモニーは、新型コロナウイルスの影響で一部の関係者のみが出席する小規模の開催に終わる事になり、残念ではありましたが、日本遺産認定を受け、報道等で取り上げていただいたおかげで、メディアを通してこの3市町の鉄道遺産の魅力が広くひろまったことは、大変喜ばしい事でございます。今後は日本遺産というブランドを活かし、鉄道遺産を活用した事業を進めていきたいと考えております。今年度におきましては、写真家の南正時様やトンネル探究家の花田欣也様等のご協力を

頂き、バスツアーを催行する予定をしております。コロナ禍ではありますが、実施可能な事業を推進していきたいと考えております。次年度の総会では、日本鉄道保存協会の会員の皆様にお会いして、鉄道遺産を活用した取り組みの先進事例などについて、意見交換できることを楽しみにしております。今後も皆様との交流を大切にしていきたいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

●片上鉄道保存会 代表幹事／甲本康則さん

片上鉄道保存会もコロナ渦ということで、会員が集まることが出来ない状況が3カ月ほど続きました。7月から活動再開しましたが、町の方からは、展示運転というかたちで人を集めるのはちょっと遠慮してくれということで、正直、対外的に発信できるような活動は出来ておりません。ただこの機会に、車両の痛みがかなりひどくなってきましたので、車両施設をもっと綺麗にしていこうということで、取り組んでおります。産業考古学会さんから、保存してある車両群を産業遺産として推薦して頂きましたので、車両を綺麗にしていくことに頑張っております。以前、幸福柵原駅ができて、開業の時には保存協会の皆さんに来ていただき、総会もしていただきましたが、あの駅の一番終端部分に、美咲町にプラットホームと線路をまたぐ形の大きな45mの長さの屋根を付けて頂き、野ざらしになっていた車両をその中に何両か収容できることにもなりました。車両等の復元に力を入れると同時に、動態保存を続けていくために、この機会にみんなで動かし方も含めて、一から安全も含めた訓練をやりようということで、頑張っております。

●北九州線車輛保存会 代表／手嶋康人さん

私ども北九州線保存会も活動制限がかなりありまして、鉄道車両を置いてある福岡市内の香椎花園も一時期閉鎖になり、中に入れない、車両に触れない状況もありましたが、この間塗装したり整備をしたりに時間を当てておりました。塗装は621号1回、148号1回、電灯の復活程度しかできませんでしたが、他の保存会さんの下請的なことをしておりました。

※開催当日の様子は、会員限定でYouTube 配信をしています。

北海道「山田コレクション」 豪雪による建屋および車両状態

2月末から豪雪にみまわれた北海道。3月5日付けで高橋一宇顧問から状況報告がありました。山田コレクション建屋の屋根に雪が1m以上積もり、倒壊の恐れや歩行者に危害を与える恐れがあると井門コーポレーションの秋山所長のご判断のもと、3月5～6日に雪下ろしが行われました。積雪による車両への影響、異常は見当たりませんでした。写真はブルーシートで覆ったSLと建屋外観、小さい建屋の積雪状況と雪下ろし作業、昨年設置して頂いた道路側の鉄製の柵と積雪状況です。この度も、井門コーポレーションさんに感謝いたします。

(事務局 河合桃子)



●YOKOHAMA TOPICS

【日ノ出町駅のタイル画】

三浦半島をかたどったタイル画が、京浜急行電鉄の日ノ出町駅(横浜市中区)の上りホームにある。案内板などは見当たらないが、1931年の開業当時から存在するとみられている。

京急は、大師電気鉄道(1899年開業、現在の大師線)から発展した京浜電気鉄道と、湘南電気鉄道(1930年開業)の2社をルーツとする。湘南電鉄が開業した1930年の時点では、京浜電鉄の終点・横浜と、湘南電鉄の起点・黄金町の間には約3キロの隔たりがあった。

この間には当初バスで連絡輸送を行っていたが、東京から三浦半島への直通運転を目指した両社は、互いに手を伸ばす形で、この区間に鉄道を新設。その結節点こそ、この日ノ出町だったのだ。正確には、日ノ出町駅の200メートルほど下り方(黄金町方)の「京浜湘南分界点」である。

1933年、晴れて品川～浦賀間の直通運転を開始した両社は、1941年に合併。両

RPSJ
information

お知らせ

- 2021(令和3)年度総会・見学会は、9～10月に栗原市で、2020年度に予定していた内容で開催の予定です。詳細は追ってお知らせします。コロナの収束を祈って、元気に再会できる日を楽しみにしています。

■日本鉄道保存協会 会報 2021年3月号 編集・発行/日本鉄道保存協会
事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405 公益社団法人 横浜歴史資産調査会内
TEL・FAX/045-651-1730 MAIL/info@rpsj.jp
※常勤者はありません。お急ぎの連絡は右宛にお願いします。米山淳一(事務局長):080-5525-1571
ホームページ <http://www.rpsj.jp/>

鉄道開業150周年にむけて 第1回委員会(準備会)開催

新橋ー横浜に鉄道が開業して2022年で150周年を迎える。鉄道の開業は横浜の産業・経済の発展に大きく寄与しました。横浜港を目指したシルクや物資の運搬は鉄道が主流でした。日本鉄道保存協会の代表幹事団体である公益社団法人横浜歴史資産調査会では、150周年を迎えるにあたり、鉄道を生活文化の視点から見直し記念事業を行うために、当協会と協働して「鉄道開業150周年記念事業委員会」を立ち上げました。2020年12月24日に第1回委員会を開催し、記念誌、イベントなどの事業について話し合いました。

・委員

菅 建彦 (公益財団法人交通協力会顧問・日本鉄道保存協会顧問)
岡田 直 (横浜都市発展記念館主任調査研究員)
北村圭一 (元横浜市港湾局技術担当部長)
斎藤大起 (神奈川新聞文化記者)
二階堂行宣 (法政大学准教授)

・オブザーバー

北河大次郎 (文化庁文化資源活用課文化財調査官)

・事務局

米山淳一 (公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事)
河合桃子・田中光一



鉄道開業時の蒸気機関車110号
(写真・斎藤大起)



社の営業エリアである神奈川県東部の沿岸部が精密に再現されたタイル画からは、三浦半島の交通網の確立を目指した草創期の夢がうかがえる。「京急遺産」といってもいいだろう。

当然ながら、タイル画の海岸線は1930年代のもので、海岸の埋め立てが著しく進んだ現在に比べると、細部がかなり異なる。これも見どころである。

(斎藤大起)